

2026（令和8）年度
 大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程
 （一般入試）入学試験＜秋期＞
 「専門科目B（行動学系）」問題・解答用紙

※以下の欄は、試験開始の合図の後に記入してください。

研究分野 field of specialization	
受験番号 examinee number	

【注意事項】

- この「問題・解答用紙」は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
Do NOT open the "Question and Answer Sheet" until the examiner signals the start of the exam.
- 試験開始の合図の後、受験票に記載の志望する「研究分野」及び「受験番号」を上記の欄に正確に記入してください。
After the signal to start the exam is given, fill in your proposed "field of specialization" and "examinee number" as listed on your examination voucher in the above spaces.
- 解答は、この「問題・解答用紙」内に記載のある指示に従い、この「問題・解答用紙」の所定の解答欄に正確に記入してください。
配付されている下書き用紙に記入しても、採点はされません。
Follow the instructions on the "Question and Answer Sheet" and correctly fill in the answers in the designated places on the "Question and Answer Sheet."
Answers which are written on the distributed draft sheet will NOT be graded.
- この「問題・解答用紙」のホッチキス止めは、はずさないでください。
Do NOT remove the staples from the "Question and Answer Sheet."
- この「問題・解答用紙」は、持ち帰ってはいけません。
Do NOT take the "Question and Answer Sheet" home with you.

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜秋期＞

試験科目	専門科目B（行動学系）
------	-------------

採点	
----	--

（ 9 枚中の 1 枚目）

次の①から⑤の条件に従い、以下の諸問題から計2問を選択して解答せよ。

- ① 問題番号（1から16）に記載されている研究分野名を参照し、志望する研究分野の問題2問を選択すること。
- ② 問題番号（1から16）ごとに1枚の別紙答案用紙（8枚目と9枚目）を用いて解答すること。
- ③ 答案用紙には選択した問題番号を明記すること。
- ④ 複数の小問からなる問題を選択した場合には、解答ごとに最初に必ず小問の記号を記入すること。
- ⑤ 日本語または英語で解答すること。ただし、指定がある場合はその言語を使うこと。

1.（基礎心理学）以下の2つの問いの両方に答えよ。

- (a) 認知は感情に影響を与え、感情は認知に影響を与える。認知と感情の関係についてのこれまでの理論をいくつか挙げ、自身の研究テーマと関連づけて説明せよ。
- (b) 実験を行うときに検定力分析が必要な理由を、以下の5つの用語をすべて使って説明せよ（サンプルサイズ、第一種の誤り、第二種の誤り、統計的仮説検定、帰無仮説）。

2.（基礎心理学）以下の3つの用語をそれぞれ説明せよ。

- (a) 定位反応 (orienting response)
- (b) 事象関連電位のP300成分 (P300 component of the event-related potential)
- (c) 閾下知覚 (subliminal perception)

3.（応用認知心理学）一つの認知的課題を遂行し続ける場合に生じうる現象について説明せよ。また、この現象に関する代表的な実験方法と、典型的な実験結果について説明せよ。

4.（応用認知心理学）次の3つの用語について説明せよ。

- (a) 気分一致効果 (mood-congruent effect)
- (b) 知覚的負荷理論 (perceptual load theory)
- (c) クロスモーダル知覚 (cross-modal perception)

5.（社会心理学）4枚目をみよ。

6.（社会心理学）次の5つの用語について説明せよ。

- (a) 手続き的公正 (procedural justice)
- (b) 認知的不協和理論 (cognitive dissonance theory)
- (c) 社会的手抜き (social loafing)
- (d) 交互作用 (interaction effect)
- (e) 象徴的（現代的）差別 (symbolic (modern) racism)

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜秋期＞

試験科目	専門科目 B（行動学系）
------	--------------

採点	
----	--

（ 9 枚中の 2 枚目）

7.（臨床死生学・老年行動学）5枚目をみよ。See page 5.

8.（臨床死生学・老年行動学）以下の5つの用語を説明せよ。

Explain the following five terms.

- (a) 離脱理論 (disengagement theory)
- (b) コホート効果 (cohort effects)
- (c) 交絡要因 (confounding factors)
- (d) ソーシャル・コンボイ (social convoy)
- (e) サード・エイジ (Third Age)

9.（安全行動学）レジリエンス・エンジニアリングの観点から見た安全マネジメントについて詳しく説明せよ。なお、説明には、"Safety I"および"Safety II"の意味と相違点を踏まえ、それらが安全マネジメントにどう関係するかを明確に含めること。

10.（安全行動学）以下の3つの用語についてそれぞれ説明せよ。

- (a) メンタルワークロード (mental workload)
- (b) 運転行動質問紙 (Driver Behaviour Questionnaire: DBQ)
- (c) ハインリッヒの法則 (Heinrich's law)

11.（発達認知科学）心理学または認知科学において、乳幼児期の発達研究を行うことの学際的な意義を論じなさい。その際、発達科学において近年特に注目されている、乳幼児研究と人工知能(AI)研究との接点に注目し、既存研究の具体例を挙げながら、発達研究が果たしうる学術的・応用的貢献について説明せよ。

12.（発達認知科学）以下の用語について、具体例を挙げながら説明せよ。

- (a) 対乳児発話 (infant-directed speech)
- (b) 感受性期 (sensitive period)
- (c) 期待違反法 (violation-of-expectation paradigm)
- (d) 指示対象の不確定性または「ギャヴァガイ」問題 (referential uncertainty / "gavagai" problem)
- (e) 社会経済的地位 (socioeconomic status)

13.（行動生理学）7枚目をみよ。

14.（行動生理学）次の5つの用語について説明せよ。

- (a) グルココルチコイド受容体 (glucocorticoid receptor)
- (b) 大脳辺縁系 (limbic system)
- (c) 脳梁 (corpus callosum)
- (d) 迷走神経 (vagal nerve / vagus nerve)
- (e) 脳内オピオイド物質とその受容体 (brain opioids and opioid receptors)

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜秋期＞

試験科目	専門科目B（行動学系）
------	-------------

採点	
----	--

（ 9 枚中の 3 枚目）

- 15.（認知行動工学）リバタリアン・パターナリズムの観点から、特定の予防的健康行動（受診行動、セルフケア行動など）の促進を目的とした公衆衛生介入プログラムを設計せよ。その際、以下の要件を満たすこと：
- ・対象となる予防的健康行動と集団の明確化（介入対象行動と対象集団の特性を具体的に定義）
 - ・リバタリアン・パターナリズムの理論的適用（ナッジ、選択アーキテクチャ、デフォルト設定等の概念を活用した理論的根拠の説明）
 - ・具体的な介入戦略の提案（実践的で倫理的配慮を含む介入方法の詳細）
 - ・介入効果の測定と評価方法（適切な評価デザインと指標の設定）
- 16.（認知行動工学）以下の5つの用語を詳しく説明せよ。
- (a) ワーキングメモリ (working memory)
 - (b) プロスペクト理論 (prospect theory)
 - (c) 実行意図 (implementation intention)
 - (d) 計画的行動理論 (theory of planned behavior)
 - (e) キャンサー・ウォリー (cancer worry)

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜秋期＞

試験科目	専門科目B（行動学系）
------	-------------

採点	
----	--

（ 9 枚中の 4 枚目）

5.（社会心理学）次の英文を読み、以下の問いに答えよ。

（問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下のとおりです。）

出典：Moser, C. E. et al. (2025) Talk is cheap: The role of (in)sincere allyship cues from men on women's identity-safety and retention at work. *Journal of Experimental Social Psychology* 120: 1-14. ただし原文の一部を改変した。

(a) 下線部(1)を日本語に訳しなさい。

(b) 下線部(2)を検証するための実験を1つ考えなさい。ただし、仮説、操作（条件）、測定項目（従属変数）、予測される結果を含めること。

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜秋期＞

試験科目	専門科目B（行動学系）
------	-------------

採点	
----	--

（ 9 枚中の 5 枚目）

7.（臨床死生学・老年行動学）次の要約を踏まえて、以下の3つの問いに答えよ。

Based on the abstract provided, answer the following three questions.

（問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下のとおりです。）

出典：Wang, Y. et al. (2025) Life course patterns of work history and cognitive trajectories among community-dwelling older adults. *The Journals of Gerontology, Series B: Psychological Sciences and Social Sciences* 80: gbae195.

(a) 生涯発達心理学では、(1)人の発達生涯にわたって生じる、(2)発達には大きな個人差がある、と仮定されている。これらの仮定がそれぞれ本研究とどのように関連しているか説明せよ。

Lifespan developmental psychology assumes that (1) human development occurs across the life course and that (2) there are considerable individual differences in development. Explain how each assumption is relevant to this study.

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜秋期＞

試験科目	専門科目B（行動学系）	採点	
------	-------------	----	--

（ 9 枚中の 6 枚目）

(b) 本研究の背景にあると考えられる、生涯発達心理学における理論的枠組み（たとえば、ライフコース視点）を1つ述べ、その理論的枠組みについて説明せよ。

Describe one of the theoretical frameworks in lifespan developmental psychology (e.g., life course perspectives) that is presumed to underlie this study, and explain the theoretical framework.

(c) 本研究の結論を説明せよ。そして、これらの知見をどのように政策や実践に活かすことができるか、具体的な提案を1つ挙げ、その理由を述べよ。

Explain the conclusions of this study. Furthermore, propose one concrete policy or practical implication that could apply these findings, and explain your rationale.

2026（令和8）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程（一般入試）入学試験＜秋期＞

試験科目	専門科目 B（行動学系）
------	--------------

採点	
----	--

（ 9 枚中の 7 枚目）

13.（行動生理学）以下の記述と図を参照しながら、以下の3つの問いに答えよ。

図は、味覚嫌悪学習(conditioned taste aversion, CTA)における脳内の背側海馬(dorsal hippocampus)と腹側海馬(ventral hippocampus)の役割を調べた先行研究での結果を示している。この研究では、背側海馬もしくは腹側海馬を損傷されたラット群と、損傷を受けていない対照ラット群の3群を用いて、以下の実験が行われた。まず、それらの3群のラットに対して、制限給水条件下において、条件刺激(conditioned stimulus, CS)として、0.9%塩化ナトリウム溶液(CS1)が30分間呈示され、そのCS1呈示終了から3時間後に0.3M塩化リチウム溶液が腹腔内投与された。この操作を長期痕跡型の条件づけ操作と呼ぶこととする。条件づけ操作の2日後、それぞれのラットには再びCS1が1時間呈示され、その摂取量が計測された。図の左側には、CS1の摂取量が示されている。その長期痕跡型CTAのテスト試行の翌日に、クエン酸－サッカリン混合溶液が条件刺激(CS2)として、3群全てのラットに同様の手続きで呈示された。その摂取直後に同じく塩化リチウム溶液が腹腔内投与された。その2回目の条件づけ操作の2日後にテスト試行としてCS2が全てのラットに呈示され、その摂取量が計測された。図の右側にCS2の摂取量が示されている。図の縦軸ではCS1とCS2は区別せずにCSと記載されている。

（問題文は、著書の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は以下のとおりです。）

<補足>

- ・図中のエラーバーはS.E.Mを表す。
- ・統計的検定の結果は、対照群と背側損傷群、もしくは対照群と腹側損傷群の間での比較を示す。

出典：Koh et al. (2009) Hippocampal lesions interfere with long-trace taste aversion conditioning. *Physiology & Behavior* 98: 103-107. 図は一部を編集した。

(a) 古典的条件づけにおける痕跡条件づけを説明しつつ、味覚嫌悪学習における条件づけの特徴を他の古典的条件づけと比較しながら説明せよ。

(b) 図に示された実験結果から味覚嫌悪学習における海馬の機能を議論するためには、テスト時でのCS摂取量だけでなく、それ以外の情報も合わせて考える必要があると考えられる。他にどのような情報が必要であるのかを述べつつ、その必要性の科学的な理由を説明せよ。また、そのような追加情報を得るための実験を立案しつつ、その実験の目的や方法を説明せよ。

(c) 図の実験結果と(b)での考察を踏まえ、味覚嫌悪学習において海馬が果たす役割について論議せよ。

